

HOPE

～地域住宅計画30年とその先に見えるもの～



地域住宅計画全国シンポジウム2013 豊田大会

平成25年10月24日(木)～25日(金)

会場：豊田市生涯学習センター 足助交流館
主催：地域住宅計画推進協議会 愛知県豊田市
共催：豊かな住まい・まちづくり推進会議

未来へ





大会スケジュール

1日目 10月24日【木】

会場：足助交流館

- 14:00 開会、来賓挨拶、大会主旨説明
- 14:30 基調講演1 渡邊定夫 東京大学名誉教授
- 15:10 基調講演2 岩田 司 (独)建築研究所住宅・都市研究グループ上席研究員
- 16:00 地域住宅計画賞 授賞式
- 16:40 地域住宅計画受賞作品講評
渡邊定夫 東京大学名誉教授・地域住宅計画賞審査委員長

会場：一の谷

- 17:30 特別功労賞授賞式・意見交換会
(終了予定 19:30)

2日目 10月25日【金】

会場：足助交流館

- 9:30 足助地区の紹介
 - ・足助地区概要、HOPE計画の取組みについて
豊田市社会部 共働推進室 足助支所
 - ・重要伝統的建造物群保存地区の取組みについて
豊田市教育委員会 教育行政部 文化財課 足助分室
 - ・環境モデル都市の取組みについて
豊田市企画政策部 環境モデル都市推進課

会場：足助の町並み

- 10:00 足助地区の街歩き

各自昼食

会場：足助交流館

- 13:00 クローズドセッション ～HOPE 未来へ
- 13:40 閉会

- 14:00 豊田市中心地区等へ移動
豊田市中心地区等見学
 - ・とよたエコフルタウン
 - ・スマートハウス団地 (車窓より見学)
 - ・トヨタ鞍ヶ池記念館

- 17:00 豊田市駅にて解散



豊田市長 太田 稔彦



ようこそ地域住宅計画全国シンポジウム2013豊田大会へ。全国よりお越しいただきました皆様を心より歓迎申し上げます。また、今大会が盛大に開会されるにあたり、各関係機関・団体のご尽力に対しまして、厚く御礼と感謝申し上げます。

豊田市は、人口が約42万3千人の中核市で、市域が918.47㎦と愛知県の約1/6の面積を占め、その7割が森林である一方、製造品出荷額が日本一という、産業や人口が集中する都市部と豊かな自然、歴史、文化が残る農山村部が共存するまちです。

また、平成21年には「環境モデル都市」として国から選定を受け、環境モデル都市アクションプランを策定し、豊田市の特徴と強みである「交通」「産業」「森林」の3つの分野に、市民のライフスタイルの変化につなげる「民生」と先進環境技術の集約の場・国内外への情報発信の場として、見える化を展開する「都心」を加えた5つを重点的な取組分野と位置づけ、これらの事業を関連づけながら、「ハイブリット・シティとよた」をキャッチフレーズに事業を推進しています。

今回の会場となる足助地区は、巴川の清流にあでやかな紅葉を映す香嵐渓があり、約4,000本のもみじが、見事な色彩に染まる最盛期には飯盛山全体が美しくライトアップされ、その紅葉と光の織り成す妙、素晴らしい眺めを堪能しようと大勢の人々にぎわいます。また、昭和50年代から地域住民による、町並み保存運動の盛り上がりから、自主ルールによる保存が行われ、平成23年度には、重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けました。江戸後期から昭和30年代までの建物の質の高さを維持しながら、時代の変化も受容して全体的にまとまりのある景観を整備しています。

今回の大会は、昭和58年に始まったHOPE計画30周年の節目にあたり、地域住宅計画推進協議会の解散に伴い、最後の地域住宅計画全国シンポジウムとなります。これまでに先人の皆様方が培ってきたご尽力に感謝するとともに、テーマにあります「地域住宅計画30年とその先に見えるもの」として、地域住宅の「その先」をこの大会に参加される皆様と大いに議論し飛躍することを祈念いたします。

最後に、本大会を含め、これまでの活動にご尽力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、参加いただきました皆様の住宅施策の取組がより一層発展するようご祈念申し上げます。

大会趣旨

昭和58年に旧建設省の事業として始まったHOPE計画（地域住宅計画）も今年で30周年を迎えました。これもひとえに国、都道府県、市町村をはじめ、地域住宅に携わってこられたすべての関係者の継続的なご支援あってのこととあらためて感謝申し上げます。

今年は愛知県豊田市足助町を主会場として全国シンポジウム開催することになりました。旧足助町は昭和59年にHOPE計画を策定し、以後長きにわたって、地域の人的資源（足助大工）による地場産の木材（足助材）を活用した町営住宅整備や街並み整備を行ってきました。長崎県島原市で開催された20周年記念大会では、このHOPE計画の神髄とも言える住宅づくりの成果が評価されて「HOPE大賞」を受賞しています。また言わずと知れた自動車産業の中心都市である豊田市は、国の「環境モデル都市」として認定され、クルマと住まいとの新たな関係構築を目指したスマートコミュニティづくりなど、低炭素社会の実現に向けた施策にも積極的に取り組んでいます。

この記念すべき30周年の節目に、地域住宅計画推進協議会は解散することとなりました。平成3年から毎年開催されてきたこの大会も今年が最後となることから、テーマを「地域住宅計画30年とその先に見えるもの」としました。各地域での住宅整備の成果やまちづくりに果たしてきた役割など、これまでの30年間を振り返り、今後の地域住宅が抱える課題やビジョンについて議論します。協議会自体は解散いたしますが、これまで培ってきた地域住宅の思想や理念が消えるわけではありません。各地で取組まれてきた実践的取り組みや研究成果の蓄積をいかに次世代に引き継いでいくか、皆さんで議論を深めましょう。また、多くの関係者が参集することで、これまで築いてきた地域住宅の人的ネットワークがこの豊田の地でさらに強く結束し、飛躍することを期待します。

基調講演

1 HOPE計画30年と今後の期待

公営住宅供給は都市成長政策の中で多面的な役割を担い、その実現効果は高く評価される一方で、都市の適切な資産になりえたかと云う疑問が無くはない。此の問題に挑戦したのがHOPE計画であった。計画実施過程で得られた様々な知見経験は今後の都市更新に生かされ、更に発展するアジア諸国の住宅供給、住宅地整備に役立つものである。



講師 わたなべ さだお 渡邊 定夫氏

東京大学名誉教授

1967年から東京大学講師、1975年より同助教授、1984年より同教授。1993年から東京大学名誉教授。

受賞に日本都市計画学会計画設計賞、日本建築学会論文賞、日本計画行政学会計画賞、日本都市計画学会功績賞他。

全国各地の都市デザインプロジェクトの指導を実施。歴史的環境保全問題にも多数取り組み、全国各地のまちづくり（福島県三春町、会津坂下町）の指導も実施

2 HOPE計画に見る住まいの地域性

地域の住文化に根ざした住まいづくりが、HOPE計画の目指すところであり、現在の住まい、まちづくりにおいては最も基本的な要件となっている。住まいの地域性は気候風土や地域の資源（人、物）、地域の生産体制等に基づく地域の住まいづくりの歴史の中に見いだすことが出来る。これまでの30年に及ぶHOPE計画策定市区町村の調査に基づき、この住まいの地域性について整理するとともに、今後の我が国の住まい、まちづくりについて考察する。



講師 いわた つかさ 岩田 司氏

(独)建築研究所 住宅・都市研究グループ 上席研究員

1957年神戸市生まれ。東京大学大学院工学研究科都市工学専門課程修了。1989年建設省建築研究所入所、設計研究室長、建設経済研究室長を経て現在に至る。2005年から筑波大学大学院教授（連携大学院）。

受賞に国土交通大臣賞（長崎県上五島町上郷団地）他。

福島県三春町、山形県金山町をはじめとし、全国各地において住まいづくり・まちづくりに関する研究・活動を展開している。

豊田市（足助地区）紹介



1. 面積及び地勢

●地区面積 193.27km²（豊田市 918.47km²）

- ・ 昭和30年に1町3村の合併により誕生した旧足助町は、平成17年に周辺5町村とともに、豊田市に編入。
- ・ 区域の87%を森林が占め、地区東部は寧比曾岳（標高1,120m）などの山々が続く一方、西端では標高80mとなる東高西低の地形。
- ・ 15自治区74自治会からなる小規模集落が山間に点在。



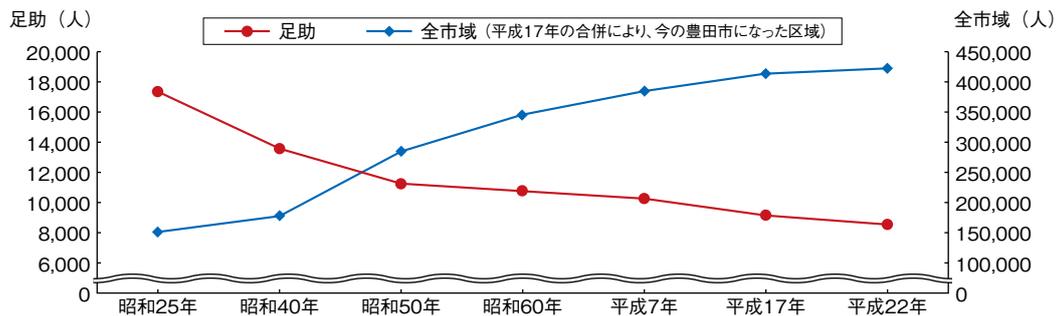
●主な公共機関

- 教育機関：こども園(5)、小学校(10)、中学校(1)、高校(1)
行政機関：県事務所(建設、農林)、県警(足助署)
医療機関：厚生連足助病院(へき地医療拠点病院)

2. 人口

●足助地区人口 8,667人 / 世帯数 2,890世帯(H25.4.1現在)

地区内の人口は、昭和前期より一貫して減少傾向にありS25年から半減、高齢化が進む



3. 歴史

- ・ 名古屋方面と南信、飯田方面との物資交流の中継地、中馬街道・塩の道の要衝として発展してきたが、明治44年の国鉄中央線の全通、昭和30年代の自動車産業の興隆を背景に町勢が停滞。
- ・ 香嵐渓を中心とする観光に力を注ぎ、三州足助屋敷(1980)、百年草(1990)などの施設整備を進めるとともに、中馬のおひなさん(1999)、たんころりん(2002)といった住民主体のソフト事業を展開。
- ・ 平成23年に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、歴史ある町並みを活かしたまちづくりを進めている。



足助観光マップ

香嵐溪・町並み散策地図

	洋食		喫茶
	和食		和菓子その他食品
	宿泊施設		観光施設・拠点
	酒処・酒屋		神社・仏閣
	軽食・甘味・和風喫茶		AED(自動体外式除細動器)

町並み散策コース 足助駐車場→常夜灯→道しるべ→マンリン小路→中馬館→
(約40分) 足助川から見た町並み→六地藏公園→宮町駐車場

香嵐溪散策コース 宮町駐車場→待月橋→三州足助屋敷→香積寺→
(約30分) 香嵐溪参道(もみしのトンネル)→宮町駐車場

※移動時間のみで滞在時間は含まれていません。



足助までのアクセス

(公共交通機関)

- 名鉄名古屋本線 車両橋駅より、名鉄バス足助行き約60分 香嵐溪下車
- 名鉄豊田線 浄水駅より、とよたおいでんバス百年行き約60分 香嵐溪下車
- 名鉄三河線 豊田市駅より、名鉄バス足助行き約45分 香嵐溪下車

(車)

- 東海環状自動車道 豊田ICより、国道153号足助方面に約15km
- 環状グリーンロード カシICより、国道153号足助方面に約9km



改定2013.8



中馬のおひなさん

2月上旬～3月上旬 交流館・中馬館などに土ひな、衣装ひな、ひな祭りの道具などを展示すると同時に、足助の町並みの中では、各家々に、さまざまな年代・表情のおひなさんが飾られます。

- 八幡宮七草粥** 1月7日 無病息災を祈念して、七草粥をふるまう行事です。
- 足助春まつり** 4月上旬 足助神社の祭礼で、旧町内から7つの花車が曳かれます。勇壮な秋の足助まつりとは対照的な女の子のお祭りで、華やかな雰囲気になります。祭神は足助次郎重範公。
- あすけルネッサンス** 5月上旬 ゴールデンウィークの目玉イベント。木や竹を使った手づくり工房、巴川の渓流釣り、新緑茶会などが期間中行われています。
- 巴川鮎まつり** 8月第1日曜 鮎釣り大会、鮎のつかみ取りなどがあります。
- 足助夏まつり** 8月上旬～15日 約6,000本のろうそくが揺らめく万灯祭り、まち中ではたんころりんという行灯が飾られます。
- 綾瀬の夜念仏と盆踊** 8月10日、15日 平勝寺を舞台に行なわれています。静かな念仏唱和と、音頭とりの歌に合わせて踊る盆踊りは、国指定重要無形民俗文化財です。
- 足助まつり** 10月第2日曜とその前日 足助八幡宮のお祭りです。旧町内から高さ6m余りの山車が4台曳かれ、出役棚で若衆が踊ります。火縄銃の鉄砲隊も警護につき、境内で轟音を発する勇壮なお祭りです。
- 香線流しおひなまつり** 11月1日～12月上旬 期間中は、お茶会、猿回し、和太鼓、足助まつりお囃子の演奏、チンドンパレードなどさまざまな催しが開催されます。
香線流しライトアップは11月上旬～12月上旬(日ごちちは別途ご確認ください)

町並み散策ナビ

●馬頭観音

- ◆大正11年(1922)
- 芭蕉句碑
- ◆慶応3年(1867)

三面八臂の優美な坐像で、傍らには、「牛馬攝待水」と彫られた水飲み場がある。馬頭観音の背後には、幕末の足助を代表する俳人・文化人であった板倉塞馬が建立した芭蕉句碑もある。



●足助商工会

- ◆明治19年(1886)

昭和33年まで足助警察署として使用されていた。



●普光寺

本堂は、大火以前の享保12年(1727)の建立。屋根は茅葺きであることから、大火以前の町家は茅葺きや板葺きの屋根が中心であったことがうかがえる。



●田口家住宅

- ◆江戸末期以前

平入2階建ての主屋の背後に4棟の蔵が連なり、街道沿いから裏通りまでの屋敷構えを良好に維持している。



●宗恩寺

現在の本堂は、文政12年(1829)の再建。明治44年(1911)建立の鐘楼は、足助八景のひとつとして親しまれ、高台にある境内からは足助の町並みを一望することができる。



●慶安寺

慶安寺は、慶安元年(1648)に現在の地に建立された。山門は大火以前の安永2年(1773)に建てられたもので、大火の類焼範囲を知る手がかりとされている。



モデルコース

◆おすすめコース (30分)

常夜灯→道標→中橋→マンリン小路→加東家→エビヤ小路→足助川沿い→飯

◆伊那街道コース (20分)

常夜灯→道標→飯盛橋→マンリン小路→馬頭観音→落合橋→常夜灯

◆よくばり散歩コース (60分)

常夜灯→道標→中橋→加東家→慶安寺→宗恩寺→普光寺→馬頭観音→落合橋

◆足助川と街道コース (90分)

常夜灯→落合橋→馬頭観音→マンリン小路→加東家→足助中馬館→莩屋→新小出家住宅→足助川沿い→中橋→塩の道づれ家→常夜灯



●常夜灯 ◆寛政11年(1799)

秋葉講の人々により建立された。当初は本町の地藏堂境内にあったと伝えられている。



●塩の道づれ家 ◆明治中期

旧渡辺医院。平成16年に町並み活性化施設として整備され、飲食店やイベントなどに活用されている。



●太田家住宅 (三嶋館)
◆天保頃 (1830 ~ 43)

当初は呉服屋で、明治初期からは旅館を営んでいた。



●小出家住宅
◆安永4年 (1775) 以前か

酒造や味噌の醸造のほかには三河湾岸の新田開発も行った足助を代表する大商家。足助の町並みの特徴的な短冊状の敷地割と異なり、間口の広い斜面地に建物群が建てられている。



盛橋→常夜灯

→常夜灯

道→旧道→



●白久商店
◆文化12年 (1815)

もとは呉服大物商店。足助川側からはなまこ壁仕上げの土蔵を見ることができる。



●良屋 ◆江戸後期

幕末から明治期にかけて、足助に13軒あった塩間屋の中心的存在として栄えた。街道沿いに妻入2階建ての主屋と平入2階建ての塩座が建ち並び、足助川側の石垣の上に離れ座敷や土蔵が建つ姿は、足助の町並みの特徴をよく表している。主屋・塩座・土蔵・離れ座敷は、市指定有形民俗文化財。



●加東家 ◆文化元年 (1804)

江戸後期に酒造業、大正期から昭和初期には質屋が営まれていた。西側の座敷の床柱に残る刀傷は、天保7年(1836)の加茂一揆による打ち壊しの際のものといわれている。



●足助中馬館 (旧稲橋銀行足助支店)
◆大正元年 (1912)

稲橋銀行足助支店として建造された。住民の熱意によって保存・活用されることになり、昭和57年に足助中馬館として開館した。商業・金融・交通・町並みなどの資料を展示し、一般公開されている。県指定有形文化財 (建造物)。



●旧紙屋鈴木家住宅
◆安永5年 (1776)

当初は紙を扱う商家であったと考えられ、その後、醸造業、金融業、新田開発なども手がけた足助を代表する大商家。大火翌年に建てられた主屋は鍛葺き一部2階建てで、その後、江戸時代後期から近代にかけて建てられた建物がそのまま残り、近世の最上層の商家の屋敷構えを今に伝えている。



●玉田屋 ◆江戸末期

当初の屋根は切妻であったが、後の改造により前面が入母屋、背面が切妻という個性的な造りとなった。建築当初より現在まで、旅館として旅人を迎えている。



●道標 ◆弘化2年 (1845)

伊那街道と鳳来寺街道の分岐点に建てられ、「右ほうらいじ道 左ぜんこうじ道」と刻まれている。



●両口屋 ◆文化文政期 (1804 ~ 29) 頃

大正期頃まで繭問屋を営み、戦後に学校給食のパン製造を手がけていた。主屋は、足助では珍しい入母屋平入2階建て。





足助地区のまち歩き

注意事項

- ◆ 昼食は各自でお願いします。
※ お店は、足助観光マップ（5～6ページ）を参考にしてください。
- ◆ 「旧鈴木家住宅」は、時間制になっております。会場を出る際に、整理券を配布しますので指定の時間にお出かけください。（整理券がないと入場できません）
- ◆ その他の町屋で今回の大会に併せて開放して下さるところがあります。開放して下さる町屋には、右側に掲載のタペストリーが掛かっていますので、一声かけて中にお入りください。



クローズドセッション

閉会挨拶

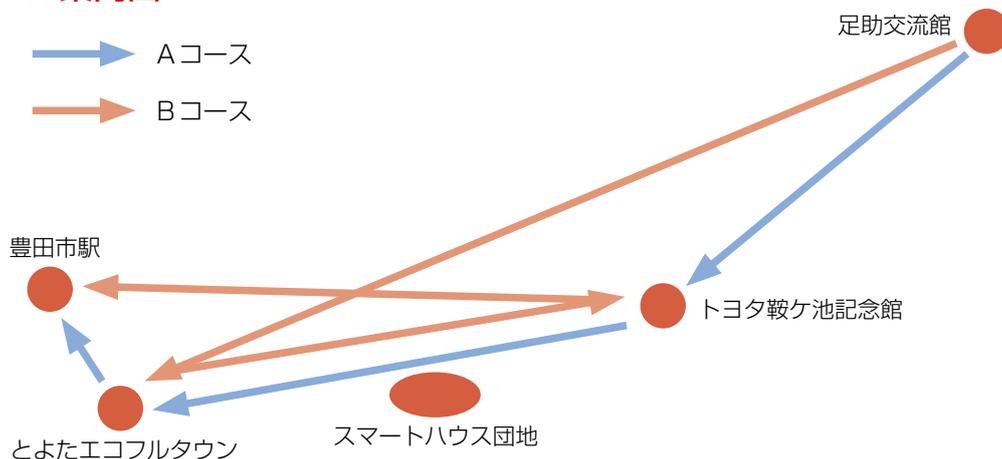
岩田 つかさ 氏 (独)建築研究所 住宅・都市研究グループ 上席研究員

豊田市中心地区等見学

注意事項

- ◆ 二班編成で見学に向かいます。
- ◆ Aコース、Bコースともに17:00に豊田市駅到着の予定です。
- ◆ 施設の概略は、10ページを参考にしてください。

コース案内図



見学スポット紹介



トヨタ 靱ヶ池記念館

トヨタ車生産台数累計1,000万台達成を記念して、靱ヶ池公園そばに建設された「トヨタ靱ヶ池記念館」。トヨタのルーツである、父・佐吉氏が生涯をかけて取り組んだ「織機」、そして「紡織機から自動車へ」と想いを継承発展させた息子・喜一郎氏の物語に、数々の展示品や映像、貴重な資料から触れることができます。日本に本格的な自動車工業を確立すべく、幾多の困難を乗り越えた喜一郎氏と仲間たちの活動の足跡をたどれば、トヨタ自動車創業期のチャレンジ精神やモノづくりの熱き心にきっと感動することでしょう。そのほか、靱ヶ池アートサロンや、旧豊田喜一郎邸もあり、文化的スペースとしても楽しむことができます。



車両展示、ラジオラマ、1/5車両模型、創業期の映像（15分）など、トヨタのルーツをご紹介します。「トヨタ創業展示室」



靱ヶ池アートサロン

トヨタが所蔵する絵画のなかから、およそ3か月に一度の周期で企画展を開催。厳選されたアートを間近に観ることができます。入館無料。現在、「ふるさと日本 日本画にみる心の原点」が開催中（12/15（日）まで）。



旧 豊田喜一郎邸

昭和8年（1933）、喜一郎氏が名古屋郊外の八事・南山の敷地内に建てた住居を移築修復。梁や窓枠などのモダンなしつらいから、喜一郎氏のモノづくりへのこだわりを垣間見ることができます。



近隣施設 靱ヶ池公園

動物園や牧場など、プレイハウス等を有した「自然に憩うファミリーパーク」。トヨタ靱ヶ池記念館同様、美しい緑に包まれた自然豊かなスポットです。

= トヨタ靱ヶ池記念館 概要 =

- 豊田市池田町南250番地 TEL.0565-88-8811
- 開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
- 入場料 無料



とよたエコフルタウン

「とよたエコフルタウン」では、次世代の環境技術を集約した全国初の地区として、安心で活力と魅力あふれる低炭素社会を提案。スマートハウスやITS（高度道路交通システム）など、次世代の環境技術を誰でも気軽に体感することができます。今年、豊田市産の食材をつかった地産地消レストラン、一人乗りの超小型EVと電動アシスト自転車の貸出拠点であるスマートモビリティパーク、水素ステーションの3施設が新たにオープンしました。また、豊田市が進める活力ある低炭素社会について、スタッフがわかりやすくご案内するガイドツアーも好評です。



エネルギーやエコについて最新の環境技術を体験できる「iピリオン」



スマートハウス

家庭で使用するエネルギーを創る・蓄える・節約するという3つの視点で、生活者にとって、環境面・コスト面などで常に最適な状態に制御する「かしこい家」。



ITS（高度道路交通システム）

バス運行システムや車両管理システムなどの、次世代の交通システム。ここでは、太陽光で発電した電力で動く最先端の技術と低炭素な社会とが同時に体験できます。



水素ステーション

2015年一般販売が予定される燃料電池自動車（FCV）の促進に向けた、商用ステーションの実証施設です。

= とよたエコフルタウン 概要 =

- 豊田市元城町3丁目11番地 TEL.0565-77-5669
- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は除く）、年末年始
- 利用方法 どなたでもご自由に見学いただけます
- 入場料 無料



地域住宅計画全国シンポジウム2013豊田大会

主 催：地域住宅計画推進協議会、豊田市

共 催：豊かな住まい・まちづくり推進会議

後 援：国土交通省、環境省、愛知県、(独)建築研究所、(独)住宅金融支援機構、
(公財)日本住宅・木材技術センター、(公社)都市住宅学会、(公社)日本建築家協会、
(公社)日本建築士会連合会、(公社)日本都市計画学会、(公社)愛知県建築士会、
(一財)建築環境・省エネルギー機構、(一社)すまいづくりまちづくりセンター連合会、
(一社)日本建築学会、(株)矢作新報、ひまわりネットワーク(株)

地域住宅計画推進協議会 事務局

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング6階

TEL：03-5211-0584 FAX：03-5211-3169